男女共同参画推進フォーラム IN 国立女性教育会館（ヌエック）

～ 一人ひとりの活躍が社会を創る ～

東上線１本で行ける男女共同参画の勉強の場「ヌエック（嵐山町）」、毎年開催されるフォーラムに今年は推進会議メンバー７人で参加してきました。
全国から様々な活動をしている人たちが集い、2日間にわたって、女性をめぐる課題に取り組んでいました。私たちが参加した記念講演やワークショップを紹介します。

◆1日目（8月20日）

特別講演　林　文子横浜市長
「超成熟社会の鍵は“女性”」

高校を卒業して、就職したもののあまりにも女性が低く見られていることに衝撃を受け、転職すること数回。そして国産車の販売店に勤務することになった。女性が営業に行くことは考えられない時代だったが、そこを頼み込んで営業活動することに。いろいろと創意工夫を重ね営業を続けた結果、売上げがトップになる。次に外車の販売も手がけ、ついには、様々な会社の改革に貢献していった。

- 男性は闘い続けるもの。
- 女性は戦うのを嫌うが、包容力があり寄り添うことができる。
- 男性と女性では表現の仕方が違う。
- 相手を知り、何ごとも持続的な努力を行う。
- 相手の良いところを見つけ、コミュニケーションを取っていく。
- 「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」「お気を付けて」と言える職場にする。

いろいろと経験し、実践してきたことが横浜市を引っ張っている原動力になっていると感じた。温和な雰囲気が漂っている市長からは、想像もできないほどの芯の強さと行動力に圧倒されました。　（齊藤記）

◆2日目（8月21日）

シンポジウム「北京世界女性会議 ―あの時、今、そしてこれから」とワークショップ「北京+20」前へ！
～世界の潮流は「男女50：50」

世界各国で女性の政治分野への参画が進んでいるのに、日本は遅れている。「2030年までにすべての分野で男女半々を目指す」として、人口比「50：50」の男女平等の意思決定へと動き出している。

日本では超党派議員連盟が、候補者の数字をできるだけ男女同数とすることを目指す「性別比例原則」の尊重を内容とした法案を出す動きがあることを紹介された。ようやく世界の潮流に沿う第一歩を踏み出そうとしている。

パネリストの一人、谷口眞由美さんは「全日本おばちゃん党」を名乗り、身近な人（半径３m以内）から声かけをして、政治のことを自分たちのこととして、未来を真剣に考える熱い志に感動した。「自分だけが安全、自分だけが良い、という生活はいやです。」と話され、とても説得力があり、私たち参加者全員の心が打たれました。

夫のパンツ検定

● 1日目のワークショップ「男女共同参画社会の啓発活動を分析する」に参加。ｉ－さんかく座（石川県白山市）の三国外喜男さんが講師でした。

● ｉ－さんかく座は、紙芝居を使って男女共同参画に関する啓発活動をしています。ホームページには「パンツ検定」なるものが…。
熟年編の紙芝居に「俺のパンツどこ？」があります。妻が事故で入院。それは大変だー。何が大変？夫は一人で掃除、洗濯、食事、出来るのかな・・

パンツ検定　あなたは？編　自分のパンツについて問いかけます。あなたはどこまで出来ますか。

級　位	★★★自分ができる行動☆☆☆
初　級	①自分のパンツは、家のどこにあるか知っている。 （解説）知っていれば初級
中　級	②自分のパンツは、自分で買いに行く。 （解説）初級以上で、②ができれば中級
上　級	③カミさんのパンツも、家のどの場所にあるか知っている。 （解説）中級以上の方で③について知っていれば上級
最上級	④カミさんのパンツも一緒に洗濯し、たたんできちんとタンスにしまっている。 （解説）上級以上で④ができれば最上級です

いかがでした？

自分のことは
自分でする。これは人間の
生活基本行動です。
自分のパンツはどこにある
のか知らない、という方は
いませんよね。

日本女性会議2015

思いやり男女(ひと)が集う白壁のまち 倉敷
平成27年10月9日・10日

～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～

◆　今年も2000人を超える男女が倉敷に集まり、裏方を支える男性の姿も多く見られました。

印象に残ったのは記念シンポジウムに登壇した３人。多くの女性が悩む子育てと仕事の両立、これに取り組んだのが「モーハウス」の光畑由佳さん。子連れ出勤ＯＫの職場、会議も接客も事務も子どもと共にいる。人前でも授乳ができるよう授乳服の考案、銀座で授乳しながらパレードしても誰も気付かないので、「ただいま授乳中」のプラカードを掲げたとか。育児休業だけが解決策ではないと感じた。

２番目は渥美由喜さん。男性だが、育児休業を２回経験。会社員、共働き、父の介護(認知症)、子どもの看護(小児がん)、発達障がい(マイノリティー経験)など６Ｋを抱えた大変な状況の中で、男にとってのワーク・ライフバランスを研究。息子の看護の中で「良かった探し」をしてノートに記録、ほんの少しの良かったことが読み返すことによって心の中で輝いて、大変なことも大変でないように思えてくる。小児病棟で出会った５歳の女の子は今も自分の心を照らしてくれていると話された。最近よく「女性が輝く社会」というが、バリキャリだけが輝く社会、あるいは輝けと女性に負荷をかける社会は違うと思う、という言葉に大いに賛同した。

また、伊東倉敷市長は「子育てするなら倉敷でといわれるまち」の推進に取り組む女性市長。２期目の現在、出生率は上昇し、働く女性数も増加した。昇進を望まない女性職員も、まずライン長に付けることによって一歩前にでた。土木・建築職に就く職員数も増加した。トップがどう方針をたて、推進していくかが前進への第１歩と感じた話であった。

記念講演の「武内陶子(ＮＨＫアナウンサー)・上田紀行(東京工業大学教授)」さん夫妻の話も面白かった。別居婚で３人の子どもあり、今回も子ども連れで参加したとのことだったが、コミュニケーションの取れた気持ちよい夫婦と感じた。（横山記）

武内陶子さん・上田紀行さんご夫妻

男女共同参画社会づくりに向けての全国会議に参加して

《テーマ》「地域力×女性力＝無限大の未来」
平成27年6月24日・東京国際フォーラム　内閣府主催

東京国際フォーラムにて

未だ経験したことのない超高齢化社会に入ろうとしている日本。『地域力×女性力＝無限大の未来』のテーマのもと、今後社会のあらゆる生活の場で起こりうる課題に対して、様々な取組みが模索・展開されている事例が紹介された。戦後70年、経済成長と人口増加を前提として男性中心に作ってきた全てのシステムが通用しなくなり、日本は今までの既成概念を変えていかなくてはならない。特に女性の役割と活躍を改めて見直し“女性が暮らしやすい社会を作ることは男性にとっても暮らしやすい社会となり、みんなにとってプラスになる”との意識を社会の潮流にしていくために、啓発と情報提供を行う地域コミュニティの必要性を強く感じた。　（山﨑記）